

人口減少下の都市計画の課題 ～ IBS 国際シンポジウム～

Issues of Urban Planning in a Depopulating Society

わが国の人口は、現在をピークに減少へ向かうことが予測されており、今まさにその転換点を迎えています。人口動向と都市との関係については、これまでの都市は人口増加に伴う拡大・成長を基調としていましたが、これからの都市は緩やかながらも着実に人口減少が基調となります。

こうした時代の変化にあって、人口増加を前提とした都市の拡大・成長時代に構築された都市計画はその機能に限界が生じており、これからの時代的確な機能を果たせる都市計画へと再構築を図っていくことが求められます。

現在、当財団の黒川洸理事長が分科会会長を務める社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会においても、人口減少等に対応した新しい都市計画制度の枠組みが審議されています。

当財団では自主研究活動の一環として、国内外の専門家を招いた講演会を行っています。このような動向を踏まえ、平成 18 年 1 月 13 日(金)にルポー

ル麹町(麹町会館)において「人口減少下の都市計画の課題」をテーマとした IBS 国際シンポジウムを開催し、200 名を超える方にご参加をいただきました。

シンポジウムでは、まず黒川洸理事長より「人口減少下の都市計画制度の課題」について、わが国の



写真 - 1 IBS 国際シンポジウムの会場風景

IBS 国際シンポジウム「人口減少下の都市計画の課題」プログラム

2006 年 1 月 13 日(金) ルポール麹町(麹町会館)「マープル」

- 14:30 開会
- 14:30 挨拶 財団法人計量計画研究所 常務理事 矢島 隆
- 14:35 講演 1 「人口減少下の都市計画制度の課題」
財団法人計量計画研究所 理事長
社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会会長 黒川 洸
- 15:10 講演 2 「人口減少下の大都市圏近郊地域の将来」
国土交通省都市・地域整備局大都市圏整備課課長 福本 俊明^(注)
- 15:40 休憩
- 15:50 講演とコメント
「ドイツにおける衰退都市・地域への取り組み：戦略、手法、プロジェクト」
ポッフム・ルール大学教授 ウタ・ホーン
- 16:45 「縮小時代の都市・地域政策の課題：日独比較の視点から」
筑波大学大学院教授 大村 謙二郎
- 17:00 閉会

(注) 現・静岡市助役

人口の推移を踏まえながら、これまでの都市計画制度の動向と課題を概観するとともに、今回の「まちづくり三法」の改正のポイントを解説し、今後の中心市街地のあり方について講演させていただきました。



写真 - 2 黒川洸理事長の講演

の取り組み」について、東西統一後の大都市化と衰退化の二局化する都市の現状を概観し、衰退する都市・地域に対する国家レベル、広域レベル、自治体レベルの政策を具体的な事例を紹介しながら講演していただきました。



写真 - 4 ウタ・ホーン教授の講演

次に国土交通省都市・地域整備局大都市圏整備課の福本俊明課長（現静岡市助役）より「人口減少下の大都市圏近郊地域の将来」について、三大都市圏郊外部を対象に交通条件を加味して算出した将来人口に基づく特徴と課題の整理と大都市圏郊外部の整備方策について検討した調査結果を解説し、大都市圏整備制度の見直しの必要性について講演していただきました。



写真 - 3 福本俊明課長（現静岡市助役）の講演

最後に筑波大学大学院の大村謙二郎教授より「縮小時代の都市・地域政策の課題：日独比較の視点から」について、先のウタ・ホーン教授の講演を受け、縮小時代における都市・地域政策について日独の比較を行い、両国の課題について整理していただきました。



写真 - 5 大村謙二郎教授の講演

続いてドイツ・ポッフム・ルール大学のウタ・ホーン教授より「ドイツにおける衰退都市・地域へ

今後の都市計画のあり方を考える上で、本シンポジウムの各講演は大変に示唆に富む内容であり、各氏のご協力により、講演内容をとりまとめ頂き、本誌特集として掲載させていただきました。